

市民のFACE 横顔

土煙を上げながら起伏に富んだコースを駆け抜けるモトクロスバイク。長野中学校2年生の阿久根芳仁さんは河内長野駅近くにあるプラザ阪下のコースで練習に励みます。

3歳で自転車を乗りこなしたという芳仁さんは、父の吉生さんに連れられ、初めてバイクに乗ったのが5歳。小学3年生で50CCクラスの全国大会で優勝、今は85CCを運転し、今年は全日本ジュニア



▲モトクロスの練習風景。芳仁さんは既に部品メーカーなど16社のスポンサー企業と契約しています。

モトクロスバイクで 世界に挑戦！

阿久根芳仁さん



▲お父さんの吉生さんと

選手権で入賞するなどの活躍をみせています。

モトクロスの魅力は「ジャンプした時の爽快感と、ライバルたちとコンマ1秒を競う緊張感」とのこと。逆に難しいのは「ジャンプのタイミングの取り方と、コーナーでのアクセルワーク」とあどけなさが残る表情で芳仁さんは語ります。

85CCクラスは、約1・5キロメートルのコースをいかに早く走るかを競います。週末になると、全国各地のレースに出場するという芳仁さんは、まだ公道は走れないため、コーチ兼エンジニアの吉生さんがい

つも送迎しています。

今年2月には約1か月間のアメリカ留学も経験し、ホームステイをしながら、本場のコースを走行、実際のレースも見学したとのこと。英語でのコミュニケーションは難しかったけど楽しかった。また行きたい」と屈託のない笑顔で答えてくれました。

「今年の目標は全日本での優勝。そして早く国際A級ライセンスを取得して、世界一のライダーを目指したい」と夢が膨らむ芳仁さん。14歳の少年のチャレンジはまだまだ始まったばかりです。

※9月23・24日に開催される自転車イベント「おくかわちBOON!」で、あこがれの先輩ライダーと共に、アクションジャンプでのデモンストレーションを披露する予定です。

